

2022年活動スローガン「ありがとう40年 愛の種まき今年もやります チャリティバザー」

報 告 2022年7月～9月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・有志の方よりカピシア郡の学校にトイレを2基

●その他の寄付

・会員有志の方よりエンゼルホームに作業用一輪車を2台

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)への寄付

・コープこうべより補助金140,000円

・佐賀県のNPO法人「POSA」の井上望氏より食材の寄付

イベント情報

10
(水)

秋のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター(伊丹市)

時間: 10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆

家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

国際エンゼル協会創立40周年記念式典が開催されました

9月23日(金・祝)伊丹アイフォニックホールにおいて開催された創立40周年記念式典には、多くの方々に出席していただき、会場は40周年を祝う晴れやかな場となりました。長年当協会の活動を支え続けて下さった皆様に心より感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。



編集後記

先日、夏休みの読書を終えた次男から「キジのお母さんは、ご飯も食べずに卵を守っているんだって」と教わりました。また「卵を守るために蛇にも立ち向かう」のだそうです。こうした話から親の優しさを感じているのでしょう。徐々に反抗期が始まる長男に手を焼きつつありますが、キジに負けないよう子どもの為に頑張ろうと思いました。

2022年 行事予定

10月現在

10月	19日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	25日(火)～31日(月)	ノクシカタ販売	高円寺ギャラリーR	東京都
11月	5日(土)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
	6日(日)	チャリティバザー	であい市門戸厄神	西宮市
	15日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	19日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
	19日(土)	チャリティバザー	和歌山ビッグホエール	和歌山市
12月	6日(火)	チャリティバザー	イオン高砂	高砂市
	10日(土)	チャリティバザー	アルザ泉大津	泉大津市
	24日(土)	街頭募金	JR天王寺駅前	大阪市

※日時・内容等変更となる場合がございます。ホームページなどでご確認ください。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ

ANGEL NEW

通巻201号
2022.10

ありがとう40周年



雨の日のチャリティバザー

国際エンゼル協会は今年40周年を迎えることができました。「バングラデシュに孤児院を!!」との思いから、当時何の経験もない主婦達が集まって考えたのがチャリティバザーでした。あれから40年、本部で行われるバザーは今年77回目を迎えます。その間には数々の忘れられない思い出があります。

先日のことでした。広い場所をお借りしてチャリティバザーをすることになりました。ところがあいにくその日は朝から天気が悪く現地についた途端雨が降ってきましたが、とりあえず3張りのテントを立てました。私は内心どうしたらいいかなと思っていたのですが、50人余りのボランティアの誰一人として「やめたら?」「大変!」という方はなく、テントの中に机を入れて品物を並べ販売し始めました。「この雨では誰もお客さんが来ないのでは?」と心配していましたが、予想に反して傘をさしてたくさんのお客さんが来て下さいました。バザーが終わった後はみんな「楽しかったね」と言われていました。苦労を苦労と思わず楽しむ、これこそ今まで長い年月ボランティアして下さった皆様の姿なのだと思います。

毎日届く荷物を整理、丁寧に点検し、アイロンをかけたり、洗ったり、拭いたり。。。各売り場の担当ごとで皆さんバザーの準備をされています。夏の暑い日も、冬の寒い日も変わりなく。また、バザー前に行く告知や品物の提供を呼び掛けるチラシ配りにも大勢の人が参加して下さいます。もうこんな日が何年も続いています。皆さんの楽しそうな笑い声は絶えません。夕方「さようなら、またね」と帰って行かれる皆さんに母川村百合子が頭を下げて見送っていた姿が思い出されます。母は「援助したというよりも皆さんと出会い、愛を学んだ」と言っておりました。日々自分の時間をさいてボランティアに来てくださる方、また遠くからご支援くださる方の真心にただただ感謝しております。共に汗し、共に悩み、共に笑い、共に歩んできた40年。かけがえのない素晴らしい日々でした。次は50周年に向けてこれからも皆様と手を取り合って明るい社会づくりに努力していきたいと思ひます。

代表理事 東村 真理子

～エンゼルホームでの食事～ 食事を通して学ぶ ～子ども食堂を通して～



育ち盛り子ども達にとって、毎日の食事は一番の楽しみです。エンゼルホームではおいしくて栄養のある献立を考えて料理を作っています。朝はルティという小麦粉を薄く伸ばして焼いたものに卵やポテトなどをはさんで食べています。昼と夕は、チキンやビーフ、魚など様々な種類のカレーで飽きることはありません。また、キュウリなどの野菜や、豆と玉ねぎなどを使ったダルスープが添えられます。

エンゼルホームでは、毎日専門のスタッフが栄養を考慮した家庭的な料理を作っています。また、子ども達はホームを出て寮などで自炊して生活するようになって困らないようにと料理の手伝いや配膳、片付けなど自主的に行っています。



賑やかな食堂の様子



自分で使ったお皿は自分で洗って片付けます

ルティ



ルティは丸く薄く伸ばし、少し焼き色がつくまで両面を焼きます



カレー



バングラデシュではスプーンを使わず右手だけを使って食べます



魚カレー・ダルスープ・ライス

食事の時間になり全員が食堂に集まると、年長の子ども達は小さい子ども達のお皿にカレーやおかず、豆のスープなどをよそってあげます。彼らは小さい子ども達が食べ終わってお皿を片付けた後、席に着いて食べます。

小さな子ども達の食事の手伝いをするなかで、家庭のあたたかさを感じたり、思いやりの心を育てています。

この習慣は世代が変わっても受け継がれ、食事や日常生活のルールなど大人が教えなくても子ども達自身でしっかりと学んでいます。

エンゼルホームを卒業した子ども達からのコメント

○エンゼルホームに来てからの10年間、毎日この食堂で食事をしていました。ここにはたくさんの楽しい思い出があります。年下の子ども達が笑顔で食事するのを見るのが好きだったので料理や配膳のお手伝いをよくしていました。おかげで人のために尽くす喜びを学ぶことができました。(リマ・アクター)



○エンゼルホームに来た当初、僕は野菜が嫌いでした。しかしお兄さん達に野菜を食べようと言われて、しだいに食べられるようになりました。大きくなってからは、今度は自分が「野菜は健康に良いから食べなさい」と小さい子ども達にアドバイスしていました。

アブル・カイル(シュボ)



エンゼルホームカレー

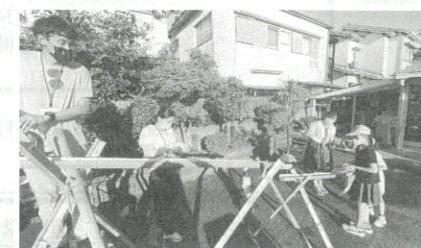
エンゼルホームで子ども達が食べているチキンカレーを再現したレトルトカレーを作りました。ぜひ一度ご賞味ください。1箱600円



近頃では当たり前のように耳にするようになった「子ども食堂」、これは2012年に家庭環境により朝ごはんや晩ごはんを満足に食べることができない子ども達がいることを知った八百屋の店主が、子ども達へ食事を食べさせてあげたことが始まりでした。今では子ども食堂も多岐にわたり変化し「家庭環境により食に困っている子ども達への食事提供の場」「両親が共働きで一人で食事を摂っている子ども達がアットホームな雰囲気でする場」「子ども同士、親同士、参加者と地域住民がコミュニケーションを取る場」と、様々な役割を担うようになっています。

当協会は2020年3月、コロナ禍により急遽学校が休みになった子ども達へ食事支援を行ったことが始まりで、同年6月より1回子ども食堂を開催しています。子ども食堂を続ける中で担当のメンバーで何度も話し合い、この活動を通じて社会にどのように貢献していきたいのかを考えました。確かに貧困の家庭の子どもへの食事支援は大切です。でも今の子ども達が抱えている問題は貧困だけでなく、もっと複雑で目に見えにくい物ではないだろうか。そのような子ども達や親たちへ、どうすれば手を差し伸べることができるだろうか。そのような悩みを抱えながらも子ども食堂を続けている時、ふと気付いたのです。「国際エンゼル協会らしく、楽しいことを皆で盛り上げてやっていこう」と。難しいルールや学習などはいったん置いて、とにかく楽しい企画をたくさん考え、子ども達がのびのびと過ごせる場を作ることに専念していきました。そうして回を重ねるごとに参加者は増えていきました。子ども達はここに来ると自由にのびのびと楽しめると知っていて、開設当初は緊張気味だった子も今では門をくぐると笑顔で走りながら受付に来てくれます。お母さん方もここで知り合った方も多く、普段子どもから聞いていた学校の友達のことも知ることができ、また親同士の情報交換もできると喜ばれています。子ども達は生きていく中で大切なことの多くを、楽しい遊びを通じて学んでいます。ここで見ず知らずの大人から親切にされた出来事は、楽しい思い出と共に子ども達が大きくなってからも忘れることはないでしょう。そうして育った子ども達は、次は自分が小さな子ども達や困っている人のために行動ができる大人になってくれるはずです。また、これからの人生の中で辛く苦しいことにおつかったときも、楽しい思い出はきっと将来の自分を支えてくれるはずです。心に残る楽しい思い出は子ども達を育て、学ばせ、そして支えてくれるものとなります。

子ども食堂を開催するにあたりたくさんの方がお手伝いしてくださっています。朝から美味しい食事を作ってくれたり、会場の設営のため暑い中机を運んだり、食事の提供から洗い物、場内の清掃などボランティアの皆さんも大忙しです。また近隣の高校生や大学生のお手伝いも駆けつけてくれ、子ども達と一緒に遊んだりイベントを盛り上げて、楽しい思い出作りをしてくれています。会員さんの中には「遠方で直接はお手伝いできないけど」と言われ食材を毎回送ってくださる方や、「お手伝いの方も応援したい」とそっと差し入れを送ってくださる方もいます。こうして子ども達も、親も、お手伝いの方々も、みんなが子ども食堂を通じて一つの大きな輪になっています。子ども達にとって一生忘れられない「楽しい」そして「優しさ」にあふれた子ども食堂を目指して、これからも頑張っていきたいと思います。



竹で作ったそうめん台で流しそうめん。自然の素材と季節感を楽しみました。



ウクライナの平和を願って、折り紙でひまわり作りをしました。一つひとつ丁寧に折りを入れて折りました。



タコ焼きパーティー用のタコも自分達で捌きました。命をいただいていることを学べたと皆さん喜ばれていました。

※子ども食堂のお手伝いや食材等の支援など、いつでもお待ちしております。